

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

おひさま幼稚園

## 1. 本園の教育目標

「強く・明るく・正しく」をモットーとし、健やかな体、大らかで明るい心、正しくものを見る目を育てる教育を目標としている。

## 2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

「手をつなごう みんなでつなぐ 明るい笑顔-元気にあいさつ、思いやりの心-」を目標に掲げ、子どもたちの主体性を高める保育を目指す。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況 評価A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
保育のあり方	A	毎週月曜日に行う坐禅と毎朝の椅子坐禅を通して、正しい姿勢が身についた。 保育の中で時計を見て活動する中で見通しを持ち、行動できるようになった。
教師としての資質や保育の質の向上	A	研修会に積極的に参加し、職員間で習得したことの認識を深め、保育活動に取り入れた。毎日朝礼や終礼を行うことで、職員一人ひとりが全学年の子どもの状況を把握し、対応することができた。
保護者への対応	A	園だよりやクラスだよりなどで園の活動や子どもの様子を伝え、月末には連絡帳で子どもの様子を知らせた。4月・12月に個人面談を実施し、普段から電話や送迎時などで密に連絡を取り合い、保護者と共に子どもの成長を喜び合うことができている。

## 4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
A	年齢別に綿密な指導計画を作成し、子どもたちが主体的に活動できるように配慮した。3、4、5歳児の各発達に合わせた充実した活動を今後も考えていきたい。また、家庭との連携を密にし、子どもの成長を共に喜びあい、信頼関係を深めることができた。

## 5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援	気になる子どもに対しての個別指導計画の作成や適した環境づくりを行い、家庭、関係機関との連携を密に取り、一人ひとりに合ったサポートを柔軟に実施していく。
安全対策に関する理解	子どもの誤飲、発作、アレルギー等の対応に関する理解を全職員が共通理解し、把握する。また、地震、自然災害、不審者対策等様々な状況を想定した訓練を実施し、「おはしも」の合言葉を子どもたちが認識できるようにしていく。
異年齢保育の実施	異年齢保育を通して、お互い尊重する心や社会性、協調性、思いやりの気持ちを育めるように活動を増やしていく。(あそび、制作活動、行事など)

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

異年齢保育が充実していると思う。異年齢保育を通して、思いやりの気持ちや社会性などたくさんの事を学べていると思う。他の学年の子どもの名前と顔をたくさん覚えることができ、会うと挨拶を交わし、すぐに遊ぶことができていると思う。年齢の壁がないので、転園して入ってきてもなじみやすいと思う。

先生が子どもの様子を教えてくれるので、家と違った成長を感じることができた。

子どもたちの成長を多角的に支援する取り組みに感銘を受けた。

主体性を育む保育、先生の質の高さ、保護者との連携、どれも素晴らしいと思う。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員